



神奈川県

「ほうじょう」コラム

令和8年1月19日

海にカエルの卵？

主任研究員 加藤充宏

昨年（令和7年）の3月、小田原市江之浦沖にある観測ブイのメンテナンスを行った時の話です。いつものように船外機船で観測ブイに近づくと、一緒に乗っていた船員が「なんだありや？」と声をあげました。観測ブイの横に、なにやら透明な物体がひっかかっていたのです（図1）。

その物体は紐状でブニョブニョしており、よく目を凝らしてみてみると、なにやら小さい粒々が無数に入っていました。私は、なんだかカエルの卵みたい…と思いつながら、正体が気になるためその物体を試験場に持ち帰りました。



図1 観測ブイにひっかかった謎の物体

持ち帰った物体を室内でよく見てみると、粒々の一つ一つには油球が入っており、魚の卵のように見えました（図2左）。この時点で正体はなんとなくわかったのですが、やはりちゃんと確認したいと思い、この卵塊を飼育してみることにしました。

水槽の中で卵塊を管理したところ、卵は順調に発育し、数日後には仔魚が孵化しました。さらに1週間ほどで独特の形の仔魚（図2右）になり、これが予想どおりアンコウの仲間（おそらくキアンコウ）だということが確認できたのです。

残念ながら仔魚はまもなく死んでしまったのですが、この時は「面白いもの見られたな～」と思うだけで、まさかこの後もう一度同じようなものに遭遇するとは思っていませんでした。



図2 謎の物体はアンコウの仲間の卵塊でした
(左：卵、右：孵化して約1週間後の仔魚)

話は変わって昨年7月のある日、小田原漁港内で藻場再生試験に使う流れ藻を採集していた時の事です。流れ藻を岸壁にあげたところ、藻の間から5cmほどの魚がポトリと落ちてきました。こげ茶色のまだら模様に全身を包まれた魚らしからぬ姿…ハナオコゼです(図3左)。

ハナオコゼはオコゼの仲間(スズキ目オニオコゼ科等)ではなく、カエルアンコウの仲間です(アンコウ目カエルアンコウ科)。カエルアンコウはみな、泳ぐことが苦手で胸鰭と腹鰭を使ってよちよちと歩く姿がとても可愛いため、水族館でも人気者の魚です。そのため捕まえたハナオコゼも、当試験場の展示コーナーで飼育することにしました。ハナオコゼは食欲旺盛でエビや魚を食べてすくすくと大きくなり、秋には捕まえた頃の1.5倍ほどに成長しました。

10月のある日、その日たまたま職場にいなかった私に、突然SNSで他の職員から連絡がありました。「ハナオコゼの水槽に、謎の膜が?」というメッセージとともに送ってきた動画には、エアレーションの流れにただよう、透明な物体が…(図3右)。ここまで読んだ皆さん、もう正体がお分かりでしょう。そうです、ハナオコゼの卵塊です。

この個体はずっと水槽でひとりぼっちだったため、この卵も当然未受精卵であり、そのせいか卵塊は一晩で溶けてなくなってしまいました。そのため、私は卵塊の実物を見ることができなかったのですが、まだまだ子供と思っていたハナオコゼが産卵したことに驚くとともに、なんだか今年はアンコウの卵に縁があるなあ、と思った出来事でした。

このように、試験場では日々色々な生き物との出会いがあり、業務の疲れを癒して?くれるのです。



図3 ハナオコゼ(左)とその卵塊(右・赤丸内)